



せきがはら 関ヶ原の戦いは、なぜ起こったの



ひでよし
秀吉の死後の大名間の対立が、いしだみつなりがた とくがわいえ
やすがた
康方に分かれるという形になって、しょうとつ
衝突したんだよ。

とよとみひでよし
豊臣秀吉は、さまざまな大名をまとめて、自分の命令に従わせる力をもっていました。その秀吉が死ぬと、大名の間の対立が、はげしくなってきました。

大名が、石田三成方と徳川家康方の2グループに分かれた

秀吉のそばに仕えて、事実上、天下を動かしてきた石田三成は、今やいちばんの実力者となった徳川家康を暗殺して、秀吉の力を引きつごうとしました。一方、家康は、天下取りをめざして、規則違反の勝手なふるまいをするようになりました。また、朝鮮で苦勞して、ようやく帰ってきた加藤清正たちは、安全なところから命令を下していた五奉行、特に三成に反感をもち、彼を殺そうとしました。このような、さまざまな大名の間の対立は、家康方につくグループと、三成方につくグループの間の対立、という形にまとまっていきました。

三成が先にしかけた

石田三成は、会津（福島県会津若松市）の上杉景勝と協力して、家康の本拠地である関東を、東と西からはさみ討ちにしようと考え、景勝に軍を動かさせました。京都の伏見城にいた家康は、会津を攻めるために、大軍を率いて出発しました。家康が留守の間に、三成方は、家康の家臣が守っている伏見城を、攻め落としました。これが戦いの始まりで、引き返してきた家康方の軍（東軍）と、三成方の軍（西軍）とが正面衝突したのが、関ヶ原の戦いです。

午前8時ごろから午後4時ごろまでの戦いで、その後の歴史の方向が決まったんだよ。

